

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172300168		
法人名	株式会社 おあしす		
事業所名	グループホーム おあしす養老		
所在地	岐阜県養老郡養老町京ヶ脇1609-10		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172300168&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの身体的精神的状況を把握し、安心して暮らせるようサポートしています。自由にスリッパのまま外へ出られるよう芝生の庭を整備し、室内はストレスのかからないように、高い天井・明るい天窓・広い空間、優しい配色など配慮しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者及び全職員が「利用者その人その人ごとにとっての支援のしかたがある。その利用者にとって何が最善であるか」を常に考え、その時々以最善のサービスを提供することを第一に考えている。「自宅の延長であるような自然体での生活をしていただきたい」との思いを反映し、日常とかけ離れたリクリエーションや行事などは行わず、利用者が、それぞれの空間でゆったりと思いついた時間を過ごせるよう配慮している。利用者の個性や思いを大切にしたい過ごし方や空間になるよう、職員が常に目配り気配りを行っているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一緒にスーパーに買い物に言ったり、喫茶店に言ったり、公園を散歩したり個別に管理者及び職員は一人ひとりに合わせて実践している	「利用者一人ひとりにとって何が最善か」を常に考え、その時々以最善のサービスを提供することを第一に考えている。ミーティング時等にいつも話をし、職員もこの理念がサービスの根幹と考えて日々のケアに当たっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩のときはこちらからもご近所の方からも気軽に挨拶している	事業所が地域の一員として、ごく自然で当たり前前の存在であるように努めている。ラジオ体操の場所として庭を開放したり、散歩途中で挨拶を交わす等利用者が地域の住民として自然に溶け込めるよう支援している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に接するときの注意や介護保険のことを尋ねられ、アドバイスする		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の行事など施設でパーベキューやラジオ体操料理作りなど行っている	町内会の会合時や家族の訪問時に開催し、事業所の行事予定等を話し合っている。町職員や地域包括支援センターの職員の参加も無く参加者が限られており、外部評価を活かすところにも至っていない。	地域住民、町や地域包括支援センターの職員、利用者やその家族等に広く参加を呼びかけ、活発に議論がされる運営推進会議となるような取り組みに期待したい。又、外部評価を活かす取り組みも行っていただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来るだけ綿密に連絡を取り、役場へ直接足を運んでいる	町役場に出向いてスプリンクラーの設置について相談しているが、事務的なことの相談に留まり、積極的に関係を築くところまでは至っていない。運営推進会議への出席も要請しているが、未だ実現していない。	日ごろから頻繁に足を運び、運営推進会議への再度の参加要請をはじめとして、ホームの実情や思いを伝え、緊密な関係を築くことを期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束そのものはもちろん、職員がストレスを感じず入居者と接することが出来るよう注意している	職員は身体拘束を正しく理解している。最近、新規利用者の使用薬剤を中止したために生じた周辺症状への対応に苦慮している。ベッド柵を外す為に畳を利用するなど対処方法を模索しているところである。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に及ぶ原因であるストレスと利用者が受動的な立場でないように言葉遣いに気をつけている、～させるという言葉を使わない		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について過去に利用実績があり、必要に応じて対応している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族及び本人に書面を用いて説明し、状態の変化と共にコミュニケーションを図っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族とコミュニケーションをとり要望などをこまめに聞き取っている 苦情窓口を設けている	全ての利用者の家族が足繁く面会に訪れている。訪問時には、できるだけ声かけをして状況を説明し、意見を言いやすい雰囲気作っている。出された意見は、利用者にも納得のいくような方法で対処している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度会議を行い行っている、個人から要望があればそのつど行っている	代表者は、職員を大事にすることが利用者の為、良いケアの基本であると考えている。職員から何でも意見を言える関係を築き、その都度対応している。職員からの提案で、出入口と反対側に避難のためのスロープの設置を検討している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与以外に海外慰安旅行など行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	重要な研修などは有給で行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設単位では行っていないが、介護者個人の他施設との情報交換などオープンで行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に不安がある場合など慣れるまで自宅に車で送迎をしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特にどのような生活を送ってほしいか聞き取り本人及び家族が不安を抱かないようコミュニケーションをとる		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	週に一度の受診、必要に応じてリハビリなども受けれるようにしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	～させるという受動的な言葉を使わず常に能動的な言葉遣いをするよう心がけている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がいつでも家族と連絡できるよう携帯電話を自由に使えるよう支援している、また電話で会話をいつでも行えるよう家族にも協力してもらっている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの喫茶店や理髪店など本人が生活でなじんできた店を利用している	家族・友人・以前の住居の近所の方などがよく訪問し、馴染みの喫茶店や理容院を利用するなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。利用者の要望で一緒に自宅に帰り、ひと時を過ごして頂くこともある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に施設内の空気を感じ、会話の内容に耳を傾けトラブルが生じないように注意している		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院するときなどは文書のサマリーだけでなく必ず同行し入居者及び家族の要望などを伝えている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに対応し個人的に行きたい場所が違うので外出などマンツーマンで行っている	頻繁な声かけや、伝えやすい選択肢を提示することで希望や意向を聞き出している。聞き取ることが困難な利用者は、本人との関わりを深くすることで、ちょっとした表情の変化や瞬きなどから思いを把握できるような関係を築いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や生活の中で家族や本人から聞き取り、昔勤めていた会社に訪問したり、釣りに言ったりしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特にないたり大きな声で追ったときなどは、原因を突き止めそれに対応した声掛けをしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度は会議で個別に全員で考え直し、意見を出し合っており、見直しがあれば家族に連絡し、アイデアを共有し、反映させている	介護支援専門員が中心となり作成している。毎月のミーティング時に利用者が快適に暮らすための関係者の意見や問題点を話し合っている。毎日のケアの中からも課題があれば対応し、必要時には作り直している。家族には面会時や手紙で意見を尋ねている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉がけで効果のあった言葉など、朝夕の引継ぎ時に伝えている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族がいけない場合など5時間の点滴にも付き添うことがある		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物など手を貸さずに見守って、一人で出来るよう支援する		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみの接骨医に車で付き添い受診している	入居時の話し合いで、協力医療機関の医師の往診を受ける利用者が多い。馴染みの医師や希望する医療機関を受診する利用者は基本的に家族が付き添い、情報の共有を図っている。状況により職員が付き添うこともある。協力医とは24時間連絡が可能である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度医師の受診と看護師が同時に来るため特別看護師のみに相談する機会がない		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接医師に病状、家族の状況など伝えている、通院で住む場合は状況に応じ点滴など通院で行うこともある		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族が病院へ行くことが出来ないときに末期の点滴を受けに通院することもある	入居時に家族と話し合い、医療処置が必要な場合は入院することとしている。食事が摂れなくなった利用者の対応を試みたが、ホームの職員体制や職員間での話し合い、家族との面談等を経て最終的には病院へ運んだ経緯がある。将来的には避けて通れないが、ホームの体制整備・行政の支援等が必要と考えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で心臓マッサージと人工呼吸法の受講をした		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、災害時には地域の方に助けてもらうようお願いをしている	1回は消防署立会いで避難訓練を行っている。半数の職員が夜間一人を想定した避難訓練を体験している。町内の総会で依頼するなど地域住民との協力体制も築いている。火災通報装置と火災警報装置を設置済である。裏口へ避難用スロープの設置も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社で役員をしてきた人などに対して特に敬語で接している	利用者一人ひとりに合わせた言葉かけをする等、尊厳を大切にした個別の対応をしている。排泄の失敗時も、気配で察しさりげなく処理している。居室のビデオについては、要望のある利用者・家族に承諾書を取り夜間のみ使用している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	タバコを出来るだけ危険を伴わず自由にすえるよう支援している、選挙へ投票の希望があれば車で送迎している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望がある場合はその日にいけなくても必ずいける日にちを伝え対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の送迎、毛染めなど行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	天気の良い日は外で食べたりもする、芋の皮をむいたり、餃子を作ったりする	準備や後片付けが出来る利用者には声かけて一緒に行っている。食事前には、美味しそうな臭いが漂い、それぞれが自分のペースで和やかに食事できるように心配りしている。自分で釣った魚を(さしみ)にして振舞った利用者もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夜間にも水分補給が出来るよう出納にお茶を入れて各部屋に置いている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	記録につけ、介助が必要な方には歯磨きうがいがいれば戦場など行っている		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度な方も3人で介助し便座に座ってもらっている	全ての利用者がトイレで排泄できるよう支援している。介護度の高い利用者も職員3人で介助して1日数回はトイレで排泄するように支援している。排泄のパターンを把握してトイレ誘導することで、オムツやパッドの使用を減らしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排便を記録し、便通の悪さ対応し薬の種類や量などを決定している、個別にバナナを毎日食べる人もある		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に入るとき必ず希望を聞き入浴を行う、基本的に毎日入浴を行っている	日曜日以外は毎日入浴している。要望があれば、日曜日の入浴も可能である。入浴の順番や時間は利用者の希望に応じている。入浴を嫌がる利用者にも工夫して誘い入浴に結び付けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に各部屋の室温ね気をつけ、空調の操作をこまめに行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便や血圧の記録を把握し、ドクターに報告しそのときに適したものを常に服薬してもらうようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道 読書 タバコ 飲酒など個人の状態に合わせ希望があれば支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭へは自由に出られるようになっており制限を設けていない、天候が良い日に限っては本人に希望を聞き公園に散歩している	天候や利用者の体調に合わせて、近所の公園や買い物・喫茶店・理髪店などに日常的に出かけている。利用者の要望で、琵琶湖へドライブに出かけたり利用者の自宅や親類の家に出かけることもある。家族と食事に出かける利用者も多い。	

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行ったときに能力のある方は財布を私、直接買い物ができるよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻繁にかけたい人は家族に協力を求め携帯電話を簡単にかけることができるよう支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2	食堂兼居間には広く開いた窓や天窓から明るい陽射しが差し込んでいる。開設者の「自宅の延長であるような自然体での生活をしていただきたい」との思いを反映し、利用者が思い思いの場所でゆったりとした時間を楽しめるよう配慮している。広いトイレには絵が複数掛かり、清潔に使用できるよう職員が目配りしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外に自由に出入される庭のベンチ、廊下の突き当りの離れた場所に椅子とテーブルが用意してある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望のものを持ち込むことができる	家族には、馴染みの物を持ち込むよう話し、自宅から持参した家具や写真、趣味の作品等を飾っている。利用者一人ひとりの個性を大切にしたい居心地の良い居室となるよう支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動できる場所には手すりが途切れないよう自立を支援している		